彙報

●京都帝國大學文學部國史專攻學生の關東地方旅行

久しきに亘つて實現を仰望せられつゝあつた國史專攻學生の關東地方研究旅行は去秋十月中旬の好季節に於て遂に實施を見ることゝなつた。この行日を閲することゝ僅に往復一週日の短少日時ではあつたが到る處史學研究上啓發裨益することゝ多く、その齎し歸つた成果は期待以上に多大であつた。茲に本旅行にて遭遇見學した事象の概要を錄し、一は以て報告となすと共に他方參加學生一同の備忘に供したいと思ふ。

一行は十月十四日午後七時四十五分西田教授に伴はれて京都驛發の急行で東上の途に就いた。參加者は後藤、佐古、伊藤、岡本、肥後、岸本、木島、佐藤、山下、飯沼、池田、塚田、山根の外に小牧學士が加はり、藤井講師も行を共にされた。三浦教授は當時東京商科大學講義の爲め滯京中であつたのを幸ひに豫め各見學場所について打合を遂げ置かれ、一行を迎へて連日熱心なる指導を賜はつた。

十五日、晴。午前八時十分、東京驛著、直に內閣文庫に向ふ。本文庫はもと太政官文庫といつて明治十七年の創設、爾後舊千代田文庫、紅葉山文庫等を引繼ぎ尙年々典籍を購入增加して現在にては藏書總數五十一萬餘冊、外に七百三十軸一萬二千枚の文書類を所藏する政府直轄の一大文庫である。

階上の閲覽室で先づ樋口龍太郎氏の文庫の沿革に關する說明を聽き終つてから一行の爲め特に展觀されたる珍藉を見る。所藏圖書中より選び出された逸品五十種ばかり、中について特に目に著いたものを擧げると、慶長の昔德川家康が五山の禪僧をして書寫させたといふ日本書紀そこに近世わがルネツサンス初頭に於けるパトロンの面目を看取する。將軍の御手許本の御實紀、續本朝通鑑等はいづれも特別に裝禎を施された善本で、德川家判物并朱黑印と共に柳營盛時の面影を偲ばれる。林羅山の五

山群緇考、松平定信の花月草紙、新井白石の西洋紀聞、朝鮮聘禮事國書復號記事等はそれ〴〵著者の自筆本であるのが嬉しい。大乘院の記錄としては尋尊の大乘院寺社雜事記、經覺の私要抄が出てゐた。これ等と共に南北朝足利時代頃の貴重なる史料、朽木家古文書一卷がある。建武以來の朽木莊の安堵狀等三十六通抑其中に收められてゐる。最近世のものでは集議院日誌や明治二年の大學校規則案など面白い。正三位岩倉具視の花文字麗はしくローマ字綴で羊皮紙上に記された遣外使節の歡迎文書は誠に珍らしいもゝ一つで、その見事な表裝と共に衆目をひいてゐた。猶ほ洋書には、一五八三年羅馬に於て出版された日本に關する耶蘇教書翰集や一八五六年華盛頓版のペリーの日本遠征記などが見えてゐた。いづれ劣らぬ貴重の文獻、しかもそれ等が非常によく手入され、保存法が行屆いてゐたのには少からず驚歎した。

文庫を辭して宮內省圖書寮に赴きこゝでも一行の爲め特に別室に陳列された圖書を閱覽する。本多博士、芝學士等編輯官の方々の親切なる說明を聞きつゝ稀覯の珍籍に眼をさらした。卷子本の日本書紀の奧書に「興國七年十一月十二日授參議右大辨兼右近衞中將朝臣畢一品儀同三司」とあるものは珍らしい。同じく卷子本で金澤文庫本の續日本紀は全卷が丈夫な箱に收められてあるが、それには「駿河御讓」との文が讀まれる。言ふ迄もなく家康から尾張義直に讓られたもの。享祿版の御成敗式目は室町季世の教科書として用ひられたもの、三條西實隆筆寫の五帝本紀は同じく陳列せられた實隆公記（寫本）永正七年十月二日及同月十七日の條によつて彼が五十六歲の時精力を傾けて書寫したものであることが知れる。猶ほ看聞日記の原本は伏見宮家藏のもので澎大なる卷子本、大部分は立派な容器に收めたまゝで一部分が机上に披かれてあつた。其他孝明天皇御一代の繪卷抑も貴い史料と拜した。閱覽終つて休憩室にかへり圖書寮の事業たる歷代皇統譜及歷代御實錄の編纂概況について本多博士の說明を承り、ついで隣接せる維新史料編纂事務局を訪ねた。

こゝでも特に一行の爲め遺漏なき準備を整へて迎へら

れた。先づ前事務局長柴田駒三郎氏は歡迎の辭と共に事業の沿革を說明せられ、次いで編纂官各位に導かれて局內を見學する。第一室には過般の大震災の厄を免がれた既成の史料初稿本の一部と參考用の各種刊行圖書とが示されてゐた。該稿本は現今既に二千七百九十九冊出來上つてゐるこの事であつた。この室で特に目についたのは編纂用の各種カードであつた。この種の大編纂事業に取つてはかくの如くカードの利用が最も便宜且つ捷徑かと思はれる。第二室には各方面から採訪された根本史料が陳列されてゐた。國史上最大の變革期に東奔西走劃策した當時の志士の面目を躍如たらしめる材料である。殊に注意に値するものとして、慶應二年薩長同盟締結後木戸孝允が坂本龍馬に對してその證人たらんことを求め坂本のこれに裏書した書面の如き其他三岡八郎(由利公正)原案福岡藤次(孝弟)修正の五箇條の御誓文の案文等貴重な史料が多かつた。第三室には維新當時の諷刺畫等を列べ壁間には事業行程表、採訪地圖、編纂系統圖等が掲げられてあつた。こゝで岩崎編纂官から一場の講話を聽いて後、事務局を辭して黑田侯爵家に向つた。

侯爵家では直に一行を大廣間に通されたが、こゝには有名な「大坂陣屏風」一雙が光つてゐた。極彩色の濃厚な密畫見れば見るほど當時の光景が偲ばれて寫眞で見たのとは又別な感じがする。大阪城の天主閣のある半雙は他のそれと比べて一段の古色を帶び一層細密に描かれてゐる。この屏風にもまして一行を喜ばせたのは、「漢委奴國王」の金印であつた。一行は始めて此希覯の遺品の原物に接してあかず鑑賞した。床の間の方に掲げられた幸高、長政の畫像や羅馬字の黑印押捺の書狀、及別室の和蘭屏風皆こりごりに歷史味のゆたかなことを感じた。猶ほ一行は大名屋敷の好標本ともいふべき雄大なる結構に見とれ乍ら薄暮同家を辭して宿舍に入つた。

十六日、曇。午前九時一行は東京帝國大學史料編纂掛を訪ねた。事務主任辻博士は玄關に迎へられて沿革事業概要等の說明を與へられ、次で研究室、閱覽室、書庫等を案內された。やがて特に一行の爲に陳列された貴重の史料を閱する。先づ山本博士說明の下に九條家所藏の弘

仁格抄下卷を見る。曆應二年の書寫でこれによつて弘仁格その物をも復元し得べき望みのある學界の至寶である。紀長谷雄家集斷簡一卷、これは伏見宮家御所藏、奥書其他によつて延喜十九年正月二十一日大江朝綱が書寫したものであることが知れる。紙背文書亦當代の史料として尊重すべきものである。次に石清水文書中の太宰府符の原本がある。一條天皇正曆三年九月二十五日附のもの藤原佐理が太宰大貳として花押を署してゐる爲め特に學界に著名なるものである。次に龍編纂官が說明されたものに石清水文書中の沙彌慶淸度緣がある、康治二年四月日の日附あるもの木版刷のものに書入れてある。建治二年閏三月七日附の史上有名な「井芹秀重(西向)注進狀もあつた。原本で見る味は又格別である。次に九條家龔藏の卷子本一卷に兼實處分狀、良經消息、道家處分狀の各自筆の三通が收まつてゐた。筆者が史上著名なばかりでなく當時所領の傳領に關する思想も偲ばれて貴重な史料である。やがて階上の第二陳列室に入つて相田學士の說明を聞く。先づ東寺百合文書中の一二を見て、次に吉川

家文書の一卷を閲した。本書は石見國永安別符益田莊に關する莊園文書で寛文十年に整理して一卷としたもの、鎌倉時代より足利時代へかけて莊園傳領の狀態を窺ふべき好史料である。次に天正二十年六月三日附で秀吉から羽柴安藝宰相に宛てゝ朝鮮出征軍を激勵した朱印は毛利家文書の一部であるが、珍しく漢文で記されてゐる。次いで岩橋編纂官の說明されたものに、實隆公記(三條西家藏)言繼卿記の原本(東京大學藏)があつた。時代の反映は粗惡な料紙の裏に書かれた一卷の日記にもあらはれてゐるといひたい。次に南禪寺金地院藏國寶本光國師(崇傳)日記の原本が出てゐた。第二室を辭して更に階下の第三陳列室に移り、明仇十洲臺灣奏凱圖と題した繪卷と、ペリー渡來の繪卷とについて中村編纂官の說明を聽いた。前者は史料編纂掛の所藏で明かに倭寇の圖である。場所は長江一帶のあたりらしきもので、製作年代は萬曆頃のものと推定されてゐる珍らしく且つ面白いものである。後者は舊津山藩主松平子爵家の所藏である。

一行は飽かず見學した後午後東洋文庫に赴いた。人も

知る如くこゝはモリソン氏苦心の多年の蒐集が中核をなして岩崎久彌氏の厚き保護の下に東都の一角に設立開館された一大文庫である。主任石田學士の案内で陳列物を閲覽する。第一室では岩崎文庫所藏日本書紀古鈔本が先づ一行の目を惹いた。これは有名な寛平延喜の交の古鈔本で學界の至寶と公認されてゐるもの、次に鎌倉初頭の聖者明慧上人の歌集がある。金澤文庫舊藏の文選集註はもと百二十卷あつたものが今本文庫に斷簡と合せて四卷あるとの事。新井白石自筆の軍器考も珍しいもの〻一つであつた。第二室では歐羅巴に於て出版された日本關係の書類でその主なるものを擧ぐれば有名な、Kaempfer: Geschichte und Beschreibung von Japan. 並にその英、佛、蘭の飜譯書 Thunberg C. P.: Voyages de C. P. Thunberg au Japan. Upsala 出版の原本、Titsingh: Bijzonderheden over Japan 同じく Titsingh: Illustrations of Japan があり、Siebold: Nippon もあれば同じく Siebold: Fauna Japonica や Fauna Flora Japonica も見える。Marco-Polo の東方紀行印本としては第二位の古さに屬するもの、ラテン語で記されてゐる。Columbus の所持したものと同じ版と聞こえた。猶ほ日本に於ける耶蘇教關係の著書として珍貴な著述が數種ならべられてあつた。いづれも當代の研究史料として貴重なものであることはいふまでもない。Manuscript で珍しいものが一本あつた。The First voyage of the English to the Islands of Japan で第一遣日英大使 John Saris のものしたものである。これ等を見終つてから書庫を一見して惜しき別れを告げ、淺野侯爵別邸に向つた。

こゝでは淺野學士の案内で特に陳列された史料を閲覽する。當家所藏の重なる史料は目下殆ど凡て廣島の邸宅にあるさうで當日展觀のものは多くは淺野守夫男爵所藏のもの其他舊藩士の家に所藏されるのであつた。淺野幸長が朝鮮陣蔚山籠城の際用ひた鎧下の和歌には戰國武士の心意氣が偲ばれる。同役に用ひた鐵砲も貴い遺物である。枕草紙繪卷一卷は美術品として優れ、詞書は後光嚴院宸筆と稱せらるゝものである。淺野高勝朝鮮渡海覺書は、蔚山籠城の實況を記せるものとして重要な史料であ

る。其他古文書類が十數點あつたが、それ等の中淺野高勝の遺言狀五通は當代の主從關係を知る材料として興味が深い。

同家を辭して上野寛永寺にたどりついたのは秋の日も正にくれなんとする頃であつた。長澤德玄及浦井亮玄二師の案内で陳列品を見る。遺に開山天海僧正の筆蹟其他歷代輪王寺門跡の御筆蹟が多く傳へられてゐる。繪畫としては有名な家康天海對座之圖や藤堂高虎畫像が興味を覺えた。忠輝より天海に宛てゝ父家康に執成を依頼した切實なる文書を集めた一卷は當代父子の情や家康對天海の關係を知るべき側面史料として棄て難い觀がある。最後に維新の際德川慶喜が謹愼してゐた當時の大慈院（現寛永寺）の一室に案内された。十疊の居室の次に八疊一間がそれである。當時の慶喜は床柱にもたれ乍ら終始默々として腕組をしてゐらるゝ所へ勝其他の近臣が時々祗候して密談を交へられたと聽いた。こゝで示された二棄の古い寫眞は戊辰の兵燹に罹つてから間もなく撮影された竹の臺附近の光景で、見るからに荒涼たる中に舊輪王寺の入口（現帝室博物館正門）のみ殘りてさびしく立てるなど誠に珍しいものと見受けた。

一行は寺を出るなり東京大學へと急いだ。この夜山上御殿で東京大學國史科の教授學生方によつて一行の爲めに催さるゝ歡迎の宴に列せんとしてである。震災後建てられた假御殿にはまばゆいばかり電燈があかあかと照つてゐる。こゝに東西國史界の巨星をとりまいて若い學徒の樂しき團欒は始まつた。主客打解けて語り合つた後、辻、三浦兩博士の間に東西兩大學の史料編纂掛と國史研究室とをこの後若き學徒の互に利用する上に充分の便宜を與へやうとのアンタントの成立したことは此上もなき一行の家苞である。斯くて十二分の歡をつくして十時頃思ひ出多き會は閉ぢられた。

十七日、雨。この日朝來の雨が意地惡くしとしと降り續いてゐる中を、午前七時四十分東京驛發の汽車で鎌倉へと乘り込む。鎌倉に著いた頃は雨足いよいよ激しい。徒歩で先づ宇津宮辻の幕府の址を踏査し日蓮辻說法の跡を見、北に出で更に若宮大路の幕府址を偲び、圓頓寶戒

寺を訪ねて所藏の古文書類を一わたり閲覽する。建武二年三月二十八日附參議源朝臣尊氏の寄進狀をはじめ、寶戒寺造營料として甲斐追分宿の關所收入の寄進狀等があつた。關賃の事、人三文、馬五文などあるのも面白い其他皆てこの寺の住僧であつた惟賢とか惠鎭とかに關する文書の幾通かがあつた。私共は文書そのものよりも三浦、西田兩教授が數多い文書をすつすつと眼を通されつゝ要所要所を捉へて說明して行かるる所に史料採訪のこつを授けらるるやう覺えたのが何寄嬉しかつた。寺を辭して東勝寺の遺址を探り、道すがら間島弟彦氏の邸を過ぎり、目下庭園に改築中の英勝寺山門の構造に德川初期の建築の好標本を見出だした。それより轉じて賴朝の墓に謁し、大倉の幕府の址を見、鶴岡八幡宮に指で廻廊に陳べられた寶物を一わたり見た後特に目下修理中の辨才天像を拜し、午後は八幡宮前から自動車に賃して圓覺寺に向つた。震災の爲寺內の荒廢は聞きしにまさつてゐたが、有名な舍利殿は漸く修覆成つて舊觀を復してゐた。殿內隈なく見學して後山門樓上に所藏の貴重なる古文書古書畫等を閲覽した。時宗自筆の弘安元年十二月二十三日附の開山請狀や、延慶元年十二月二十三日附太政官符國宣等の諸文書、開山佛光國師の肖像、跋陀婆羅菩薩の畫像などがあつた。こゝを辭してから再び自動車に乘つて長谷に向つた。大佛は修覆が全く完成して溫容を雨に洗はせてゐた。更に自動車で極樂寺に着いたのは日も暮方に近い頃であつたが、直に所藏文書の閲覽を請うて一わたり調査した。中にも後醍醐天皇の綸旨の日附を元弘二年とすべきか三年とすべきかについて打かへし打かへし眺め入る。有名な極樂寺往古繪圖は忍性菩薩の事業と精神をうかがう史料として貴重なものである。薄暮寺を辭し六時一分鎌倉發の列車で歸京した。

十八日、雨。前日から降り續いた雨は容易に晴れさうもない。前日雨にぬれた上にこの日は急に寒冷を覺えたが、上野驛發午前七時の列車で日光に向ふべき豫定の行動を取つた。日光驛に着いたのが十一時二十五分、電車で神橋まで進み、それから東照宮に指でた。神官渡邊東夫氏は一行の爲參拜の東道をされた。善盡し美盡した結

構無比の建築其他に就ては一切記述を省略する。たゞ近來一部人士の間に日光建築を稱して俗惡なものゝ斷ずる風があるが、四圍の翠綠とし つくりあつた調和の妙は、少しもさる感じを與へなかつた。あまりに技巧にすぎた纖細なディテールには尙議論の餘地はあるにしても、それ等を頭ごなしに片附けてしまふ說には斷じて與みし得ない。拜後社務所で晝食を認め少憩後古谷淸氏の懇ろな案內で寶物館、大猷院廟奥院、慈眼堂等を巡歷し、輪王寺境內を橫ぎつて神橋に出でた。時間の餘裕を利用して一行はそこから自動車を驅つて裏見瀧にしばし晃山の秋色を愛で、六時五十分の日光發列車で十時四十分上野驛に歸着した。

十九日、晴。午前九時落合なる近衞公爵邸に赴く。これまで幾度か話にのみ聞いてあこがれてゐた門外不出の貴重なる文獻を閱覽せんが爲めである。自筆本の御堂關白記と賴通のその書寫本、ついで猪隈關白記、深心院關白記、後深心院關白記など何れも著書の自筆本で具注曆に書かれてゐる。道長の書體は遺に勝れて美しい。その

具注曆は半年で一卷になつてゐた。具注曆の文字も他の後代のものに比べて美しく記されてゐる。源三位頼政や平重盛の紙背文書を含む兵範記も珍しく貴重なものである。朱雀院の御宸翰亦見のがすべからざるものである。以上點數こそは少いが何れも其の世を偲ぶにこの上もなき絕好の史料、よくもかく傳へられたことよと見て行く中に涙ぐましき感激を唆られた。

午後は帝室博物館を訪ねた。幸にも佛敎關係國寶、繪畫特別展覽會が開かれてゐたので是迄見知りごしの優秀品のかず〳〵を一堂に觀覽する機會を得た眼福を喜んだ。殊に溝口美術部長が一行の爲特に階上陳列の一々の品に就いて熱烈なる口調で說明されたので一行は覺えず陶醉してしまつた。其他の陳列品に就いては高橋歷史部長から親切なる說明に預つた。次に一行の爲特に別室で展觀を許されたものの中で、眼をひいた重なるものに日本國見在書目と狩谷掖齋舊藏の新選字鏡とがあつた。猶ほ考古學上貴重なる各種の古代金屬器や古い金石文や大判小判の行はれる前の金貨など珍貴なものが數十點陳列

され、それらについても黒川眞道氏、後藤守一氏の説明を聽いた。

博物館を辭して後、最後の見學場所となつてゐる淺草寺に赴き、傳法院の庫裡で所藏の典籍を閲覽した。觀音緣起七卷、淺草寺緣起一卷、蘇東坡九相一卷等の繪卷物をはじめ幾十卷かの經卷があつた。それ等の中で最も注目に値するものは法華經八卷とその開經無量義經、結經觀普賢經、の一部十卷から成る斐紙に記された寫經である。傳來は明らかではないが、平安朝の末期とは下らぬものかと思はれ、見返の繪も甚だ興趣のゆたなかものがあつた。一行はそれらの見學を終へて宿所に引上げた。

以上、我等の研究旅行は滯なく豫定の日程を完了した我等は今こゝに筆を擱くに臨んで到る處或は見學上特殊の便宜を與へられ、或は親しく親切なる指導を辱うした諸賢に向つて甚深の謝意を捧げ、最後に我等の此有益なる旅行に援助を與へられた谷川茂次郎氏に深謝の意を表する。

◎史學研究會

例會 昨年十月三日午後一時より文學部第十教室にて開催左の講演ありたり。

群書治要の史類　　文學士　石濱純太郎君

帝王學の金科玉條として編纂せられたる名著群書治要に引用せられたる史部の各書を摘出し、其の文章を校勘學の立脚地より論じ現今通行の史書にして該書に引用されある舊時の書が、現行のものと字句に差異ある點を詳細に道破せらる。

刀劍銘文より見たる東西交通　　理學博士　小川　琢治君

刀劍銘は人文史研究上に資するところ少からずして、之に依り未知の所に刀鍛冶の名人の居住したることを知り、延いて聚落の研究にも役立つものなるが、又古代の交通狀態をも之に依りて知ることを得。從來刀鍛冶は平安朝中期以後に中央より奥州へ傳はりたる如く考へられたるが、實は反對に奥州より中央に傳來せるものにして

奥州に於て古く刀鍛冶の發達せし理由は原料の鐵の豊富なる事、屢々戰爭の行はれたる事、滿州方面との交通に依り渤海人等より刀鍛冶の術の傳はりたる事に依る。多くの刀劍銘中には塞外人の名あり、ギリシヤ文字もあり て、此れ等に依り刀劍の中亞より支那に來り、それより我國に傳來せし事を知り得て其の道程、傳來に要する日數等につき詳細に述べらる。

大會　十一月七日午後一時より文學部第十教室に於て開催、先づ羽田評議員の挨拶島田書記の會計報告ありて次に左の講演あり。

日明貿易の眞相　　文學博士　三浦　周行君

足利義滿以來の對明貿易の眞相を一其の本質、二其の淵源、三其の方法の三項に分ちて說かん。第一に其の本質に就て云へば、元來支那に於ては貿易を爲すに朝貢を主として貿易を從とするを以て傳統的方針とせしが我國にては對等の交通を爲すことを以て方針とせし故兩者が交通するには其間に超え難き障礙横たはれり。義滿は如何にしてこれを突破せしかといへば彼は寧ろ變則の方法に依りしものにて、其の事は彼が初めて明に使節を派遣せし際博多の一商人肥富某を以て之に充てしことに依つても知り得るなり。彼が對明貿易に著手せし動機は第一に國內が平定されて外交貿易の障碍の除かれたる事、第二に貿易の結果得らるゝ莫大なる收益を目的とせし事、第三に對明貿易に從事し又は其の知識を持ちし左右の勸說に依りしなり。次に日明貿易の淵源は鎌倉時代以來社寺の造營費を得る目的の爲めに行はれし一種の保護貿易なりと信ず。最後に日明貿易の方法は遣明船が彼國に到著すれば先づ朝貢の儀式を以て我方物を渡し、彼よりの贈り物を受取り、商人に交易を行はしめたるが我より彼に贈る方物其他貿易品を調達することは當時財政の豊富ならざりし幕府に取りては困難なる事なりし故有力なる大名社寺に之を爲さしめたるが名義は其れにしても實際は多く富有なる商人に調達させたるものにて其點は天龍寺船の場合と變りなく、それが後には公然朱印船を商人に許すの素因となれるなり云々。

右終りて評議員の改選を行ひ、全部重任、次いで左の

講演に移る。

樂浪郡の遺址と其の遺物とに就いて

文學博士　池内　宏君

朝鮮縣は樂浪郡の治所にして王初は之を元の衞氏朝鮮國の都王建城なりとすれば今の平壤附近に位置せし譯であり、高句麗の都の平壤は今の平壤なる以上は王建城も亦大體此の附近と見るべし、然るに水經注には樂浪郡治の朝鮮縣をば今の大同江の西北に擬したり、而して大正二年以來大同江南の土城里より樂浪金官瓦、樂浪太守章朝鮮右尉等の遺物を發見したるより見れば土城里が樂浪郡の朝鮮縣址と見るべきものならむが、唯訓邯長印なる遺物の發見せられたる爲予盾を感ぜざるを得ず、訓邯縣の位置は不明なれども樂浪郡の第二縣として擧げられある以上は朝鮮縣の附近にありしを知るべく、而も晉書地理志には泰始十年の現在にて朝鮮縣在りて訓邯縣無し、惟ふに是れ武帝の時より前後漢を通じ郡治は平壤にありしが三國頃より何かの理由にて土城里に移されたるものにして而して土城里は古の訓邯縣治と考へらるれば、朝鮮縣治の址と考へらるゝ土城里より訓邯長印の發見あるも事情上有り得べきことであり、此の說は晉書所載の樂浪郡の六縣に大同江以北の地無く三國以後に樂浪郡が縮少せられたるを語れることによりて證明し得らるべく卽ち武帝の時今の平壤に置かれし朝鮮縣治が三國西晉頃に大同江を渡りて南して古の訓邯縣治へ移され而して訓邯縣が消滅せしものと考ふるを妥當とすべきに似たり云云。

同日午後五時より大學樂友會館樓上に於て會員の晩餐會を催したりしが、東京、東北の兩大學を始め全國各地の高等學校其他より來會せられし會員五十六名出席、歡談に刻を移して十時散會せり。翌八日には會員一同に御所及び修學院離宮の拜觀を許されたりしが、御所に於ては特に猪熊淺麿氏より各殿舍に就いての詳細懇切なる說明を聽くを得たりしは、拜觀者一同の深く感謝するところなり

◉讀　史　會

例會　昨年九月二十五日午後六時より樂友會館階上第一

號室に於て開催、三浦、西田兩教授中村講師以下十二名參集、左記講演あり。十一時散會す。

七木禁制のこと　文學士　渡邊　多仲君

先づ德川時代に於ける經濟學者熊澤蕃山其他の森林保護政策に關する意見を述べ、一轉して同時代の山林制度を詳說し、更に主要なる各藩に於ける森林保護の實際を語り、主要なる木材となるべき七種の樹木の事、藩によりて樹種に相違あることと又必ずしも七木ならざりしことを說かる。

談山神社文書に就て　文學士　中村　直勝君

談山神社には豫期に反して古き文書の缺除せることより德川時代の文書をも所藏せざることを說き、明治初頭神佛分離の際失ひしものかと考へ、現今約五六十本の卷物と大約三百通の文書あることを報じ、それ等の中にて天正年間に於ける文書を證として、多聞院日記の記事と比較考慮を加へつゝ、天正十三年大織冠郡山に遷座ありしことに及び慶長十二年六月三十日に起りし大織冠御破裂の事件とその御平癒に及ばる。

例會　十月三十日午後六時樂友會館にて開催、過般擧行の國史專攻學生關東地方研究旅行を指導せられたる三浦西田兩教授の慰勞と本學期に入りてより維新史の講義を擔當せられたる藤井講師の送別とをかねて主賓を始め會員十數名參會、七時愉快なる晩餐會を共にし、後別室に入りて左記の講演を聽き終て旅行參加會員の報告あり、十一時散會せり。

幕末の一流言に就きて　文學士　藤井甚太郎君

幕末史は史料頗る多きを以て社會學、社會心理、將又史學研究法の研究對象として興味多く又相當の業績を擧げ得べしと述べ、流言の研究も亦この意味に於ける研究の一なりとし、流言は夢の如く意識したる世相、潛在意識の世相等相交錯して流布するものにして、その時代に於ける人心傾向の一斑を知るに足るものなりと斷じ、進んで幕末孝明天皇崩御の際行はれたる流言の一例を擧げてこれが解說を試みられたり。

例會　十一月二十四日午後六時樂友會館第一號室に於て開會、三浦教授以下十四名、左記の講演あり、十時散會

す。

文久三年八年因備以下七藩の直奏に就いて

文學士　松野　遵崇君

長藩の建言によつて京都には攘夷論が非常な勢で行はれ、やがて孝明天皇大和行幸の議が起つたが攘夷親征は名であつて實は討幕の準備であつた。かゝる時代に因州池田、備前池田、米澤上杉、阿波蜂須賀の世子、近江大溝分部、肥前新田松浦、因州新田池田の七藩は冷靜なる考察の下にこの擧を否とし、八月十三日是等の諸藩主等が死を決して直奏に及んだ顚末を詳說し、この事件が從來四藩の事として傳へられて居るも實は七藩であつたことを述べらる。

古代鈴使用考

佐藤　虎雄君

考古學的資料と古代史の文獻の上よりわが古代に於ける鈴の使用を證し、德川時代に於ける鈴の研究を說き、更に鈴の構造材料製法等より進んで鈴の使用論に及び、古代はたゞその音色を愛せし外に裝飾として使用せしものなるを時代の進むにつれて合圖警備の用に供するにいたりしことを詳說し。これを宮中の故實に考へ更に驛路の制しかれてより驛鈴がもつにいたりし交通史上の重要なる意義を述べ轉じてその宗敎的に有する意味を考察した。

大會　十二月五日正午から新築の樂友會館の大講堂で開いた。左記四氏の講演の外別室に大日本史編纂に關する小津淸左衞門氏寄贈の記錄類を中心として陳列を行ひ展覽に供した。來會社約百五十名終始熱心に學究的態度を以て傾聽した。終つて會員は階下の食堂で晩餐を共にし又階上で遠來の人々と共に歡談を交して。十時散會した。

一、近世に於ける思想上の鎖國

文學士　中村喜代三君

德川幕府が天下を統一して以來輸入書に對して如何なる政策を取つたかと言ふに其れは時代に依つて異なつてはゐるが大體に於て耶蘇敎禁止の精神を以て一貫してゐる。而して輸入書の中でも特に問題となつたのは漢籍であつて寛永七年キリスト敎に關する書籍の輸入を禁止した。然しながら此の事は結果として西洋文化輸入と言ふ

事に付いて一大障害を與へた。此れは禁令の精神には添ふてゐないが然し其れは止むを得ない因果關係である。次に享保年間に至つて此れを嚴禁してキリスト教に關する一言半句を含むものならば決して此れを許すまいとした。斯くして西洋の精神文化輸入の途は殆んど全く絶たれた。然し八代將軍吉宗の改革に於て時代の要求と吉宗の精神と相俟つて遂に禁書の令は緩められた。而して思想の束縛も或る程度までは解かれた。勿論キリスト教は決して此れを許容する所ではなかつたが寛永の禁止に比較して形式的には左程の相違もない樣だが事實としては余程開放せられたのであつた。

斯くして思想上の鎖國は政治上の其れと同樣にキリスト教禁止が其の根本精神となり動機となつてゐたものであつた。而して吉宗の此の半解放は安政の開港と共に我文化史上極めて重大なる意義を有するものであり思想發展の一大刺激劑となつたのである。云々。

一、復古國學派に於ける荷田春滿の地位に就いて　　文學士　清原　貞雄君

德川時代の後半に國學者中其の代表者として世人は所謂國學の四大人として荷田春滿を上げる。而も彼が其の筆頭であると考へられてゐる。吾人は此の春滿が何故に四大人の一人とせられたかに就いて一般の人々とは異なつた見界を有つてゐる。吾人の考へる所では春滿は假令博學の譽はあつたにしても國學者として學問的に四大人の一人たるの地位を得る程の學者ではなかつたであらうと思はれるのである。而して又彼が國學の祖であるとも考へられないし彼の創學校啓の如きも一僞作に過ぎないものとすれば此の方面から言つても四大人の一人たる可き理由はあるまい。されば最後にして唯一の而も極めて薄弱な理由としては後世の國學者として名を成した人達が主として此の春滿の流れを汲んで居り此等後進の人達によつて遂に彼が四大人の一人に祭り上げられたのだと考へられてゐる。最後に吾人の研究は更に諸君の中に於ける春滿研究に批判を待つものである。云々。

明治の文化　　文學博士　西田直二郎君

日本史は大體に於て調和ある發展の經路を取つてゐる

ものであるけれども舊い心を蘇らしたと云ふ點に於て明治時代と對して考ふ可きは藤原時代と德川時代との二つがある。藤原時代に於ては自然の儘の人間を求め描かうとした。德川時代には其れよりも調子の高いKategorischな人間を求めた、而して明治時代には人間の種々相を許容し認識し樣とした、Geistsgeschichteとして見た時には德川氏が幕府設立の當初に於て其の基礎として採用した政策諸侯分立と參勤交代の制は此の種々相を認めしむるに到る二つの大きな素因となつた、而して幕府は其の依つて以て立つたGrundによつて倒れたと見る事が出來る。

Windelbandは其の哲學史に於て伊太利のRenaissanceの事について力說したが日本に於ける明治維新と事情は極めて相似てゐる、小國に於ける都市が「分化」を助け、其の分化は國民の自由發展の前提となる。

斯くして作り出された明治維新の理念は、萬機公論と智識を世界に求めると云ふ單一なるものに要約し得る。而も其れは人間の個性を認めると云ふGrundに立つ。

然し此の種々相を認める事も明治の六、七年頃までには曖昧があつた、其れが第二期に入ると統一せられ樣とした何色かにならうとした。而して反目が起つた。と共に自然科學的な客觀的な考察をなす樣になつた、然し第三期に入つては對外的な戰爭と云ふものによつて日本人の奥にある純日本的なるものゝ覺醒を促し遂に日本の帝國主義と云ふものが起つて來たのである。云々。

一、大日本史編纂に關する記錄の發見と其の價値

文學博士　三浦　周行君

記傳體の完備せるものとして又二百五十年に亙る努力の結晶として空前の而も或は恐らく絕後の大著たる大日本史編纂の事情を明かにし得たならば我國に於ける史學史上得る所頗る大なるものがあらう。此の點に於て藤田幽谷の修史始末も未だ充分なるものとは云へぬ。然るに今回小津清左衛門氏が我が大學の爲めに購入寄贈された往復書案、雜事記二百四十九冊は朋曆寛政の間に亙り安積、佐々、中村等彰考館史官の自筆多く史料蒐集の方法修史上の意見の交換等を細大となく窺ひ得可き最も貴重

なる根本史料である。而して少くとも同書の第一期に於ける編纂事情は此れに依らなければ其の眞相を盡す事は到底不可能のものであらう。

吾等は今此れに依つて當代の史料蒐集が如何に困難であつたか。乃至此の困難を排除せんとした水戸君臣の熱誠が如何に徹底したものであつたかを知り、且つは又光圀と彼と同時代に出でゝ同じ志を懷く好文の兩大物と併稱せられた前田綱紀に比較してよく骨董癖に陷る事なく一意修史の本道を猛進した事。及び彼の南北朝に對する滿腔の同情が時に過度に走らんとさへした事情を最も明白にし得るのである。要之將來に於ける本書の研究は大いなる收穫を豫期し得可く我史學史の研究上此の書を得たる喜びは寄贈者小津氏に對し絶大の感謝を捧ぐる所以である云々。

當日の陳列品は之れを四區に分けた第一區は大日本史の草稿で小津氏寄贈の元祿年間の草稿中の平重盛の傳（今の本には此れに無いものを增補し又は此れの本文を注にした等の異同がある）及び同時代の草稿寫眞の垂仁

天皇紀で他に元祿年中の淸書寫眞及び寛政文化年中の草稿の寫眞共に垂仁紀である。第二區は德川光圀の肖像と筆蹟であるが肖像は京都高臺寺藏の光圀薨去の翌年狩野養朴の筆である。筆蹟には大日本史編纂記錄中にも見えてゐるが源經基の墓の修理を喜び源氏と經基との關係に對する史觀を述べた彼の書狀外一通の自筆書狀第三區に及び第四區には共に小津氏寄贈の原題往復書案とある編纂記錄である。初めに大日本史編纂記錄なる「往復書案」と「雜事記」との目錄や彰考館の藏印あるものを示し。次に元祿十六年安積澹泊、酒泉竹軒の兩總裁書狀案に明曆三年の江戸大火後光圀が史館創立を思ひ立つた事の見えるもの、天和元年江戸史館から當時京都出張中の吉弘、佐々、內藤の史臣に史料蒐集に遺漏なかる可き樣との光圀の旨を傳へた江戸史館の書狀案。第四區に入つて元祿元年大串元善を上洛せしめた時の光圀の口達案及び佐々宗淳九州探訪報告案其の中には貞享二年宗淳が九州各地を巡歷して薩摩に行つた時下島津家の接伴員に就いて同家に關する史疑を解く事を得たる事及び其の贈物を受けな

かつた事を載せてある。其他貞享五年吉弘中村兩總裁から京都出張中の大串元善に贈つた書狀案、元祿十二年安積中村兩總裁から光圀の近臣井上玄桐に贈つた書狀案、南朝を正統に立つる辨、元祿五年總裁中村顧言より鵜飼眞昌に贈つた書狀案がある。之れには佐々宗淳が河內の出張先から楠木正成に贈官位の事あつた事を報告した爲め光圀が頃日何ごなく機嫌面白き事を記してある。

●支那學會

大會 昨年十一月廿二日午後零時三十分より京都帝國大學々生集會場階上にて開催左の講演あり。

支那古代の民家に就て　文學士　藤田　元春君

支那古代の民家に重拱藻井を許さゞりしは管子唐六典等に見え唐代の庶民は皆三間四架の家なりき唐制が日本に影響せしものゝ見らるゝは山城國葛野郡山田庄の貞觀年間の家屋賣買文書に三間四面に南北孫廂ある家の見ゆるにて知るべく、此の式は德川時代迄襲製せられたるものゝ如し、大體支那に於ける穴居のことは毛詩大雅の諸篇に陶復陶穴の語るに現はれ、草屋野廬のことは幽風七月の詩に見え南向に造ることは廊風定之方中の詩に見ゆ、而して間取りに就ては二間四座が基にして之が日本の古代家屋に影響せるなり大社造の如き其の有力なる遺物ごすべし云々

致良知ごと自我實現　文學博士　高瀨武次郎君

傳習錄等に見ゆる致良知は王陽明の考にては人的良知ごと宇宙的良知に二分せられて居り、前者は今日の良心に該當するものなり、良知の名は孟子より出で吾人々類の道德的本能を指せるなり、王陽明が天地の間の萬物皆人的良知を有すごと斷言し時に眞己、眞我の語を以て代用せるより見れば良知ごは人心の本體にして如何なる惡人にても此の良知を殘さゞる者なし、人は常に良知を發揚せざるべからずごと主張するは宋明哲學の最も大成せる考にして、アリストテレスが自我實現の考を有してカント、ヘーケルに祖述せられたるが如く、王陽明の致良知の考は世界的に考へてもアリストテレス以下の學者の考ふる所ごと同じ傾向を有せるを見るべきなり云云。

天文學上より見たる支那上代の文化

理學博士　新城　新藏君

春秋には三十六の日食の記事あり、これ皆當時の記錄なるが左傳は西曆紀元前三六〇年頃のものなり、古代に行はれたるものが純太陰曆なりしことは週、旬が皆月輪を基として計算せられたるものなるに依りても明瞭なるが、農業の起るや太陽曆の必要起る。支那にても亦同樣にして、堯舜以前は純太陰曆時代にして辰によりて觀測し、周初に入りて二十八宿の觀測起り春秋中期より土圭法起りて、曆法準備時代となり戰國中期に曆法制定せられ前漢末より曆法時代に入りしものと考へられ、大體、支那に於ける曆法、歲星記事、五星、五行說、星占、星經は皆戰國中期に成就せしものならむ但し現行の甘氏石氏の星經は後人の僞作に出で、其の原書の面影は却つて開元占經に引用せられある遺文によりて察するを得べく、西洋古代に比して支那古代の天文曆法の發達は決して劣れるものに非ざるなり。

午後五時半講演終了するや席を樂友會館に徒して過般歸朝せられたる高瀨教授の歡迎を兼ねて晩餐會を開催し高瀨教授の支那遊歷談あり午後十時散會せり。當日は藤田氏の講演の參考史料として幾多の家屋の平面圖を陳列せり聽講者百餘名に達したりき。

●西洋史讀書會

例會　昨年九月廿五日午後六時學生集會場にて第四回例會開催、時野谷助教授、大類講師、菅原大村中原諸學士學生十數名出席、左の二君の研究發表及紹介あり。

バビロニアに於ける世界統治思想に就て

文學士　中原與茂九郎君

西紀前八世紀にはイスラエルに於ては豫言者により民族神ヤーウエは世界神に發展しヤーウエの諸國民族統治てふ宗教的世界統治思想が起つてをる。同時代にはTiglath-Pileser　四世によるアッスリア帝國の世界的遠征が試みられてをり、その世界統治思想は明に帝國主義的なることを該帝王の碑文より論じ、それよりバビロニアに於ける世界統治思想の起源及び內容を根本資料より尋

ね、その萠芽的のものは西紀前三千年代の中葉アカード王國時代にあり、三千年代の末期バビロニア第一王朝のハムラビ王時代には其思想内容をかなり詳細に知りうる程度に發展してをり、それによれば帝王は神の代表者にして太陽の如く牧者の如く正義慈愛平和をもて全地全人類を支配すべしてふ德治政治による世界統治思想なることを論ず。

ルネッサンス時代に於ける英國史上に現はれたる伊太利の影響に就て　大館　宗憲君

一九二五年一月の History に載せられし C. M. Ady 女史の論文の紹介にして伊太利の影響を商業、外交、政治、文學、社界思想等に分ち、夫々詳述し、その主要なる保護者とも云ふべきグロスター公ハンフリーの功績を列擧す。全體としては政治上よりも社界上に受けたる影響は多大であつた。されど之に對する反動的運動起り結局は英國の組織を破壞するまでには至らなかつた。

例會　十一月五日定刻樂友會館にて第五回例會開催、坂口教授大村中原兩學士學生十三名出席。左の如き二君の紹介あり。

アウグスツス帝　井上　五七君

獨乙に於ける古代史の世界的鴻儒 Ed. Meyer の Kleine Schriften 中の一項にして、先づ個人の人格力が歴史に如何なる影響ありやこの考より帝の個性人格及事業を說き後世の帝に對する惡評が果して然るや否やを史實より釋明し、帝はプリンチエプスの實權を握り古代史上重大なる地位を占めしも彼の欲せしものは彼の後に得られず全く異れるものが生じた、帝政卽ち是である。しかし古代を平和に終へしめしは帝なりと云ふ事が出來るであらうこ。

十八世紀に於ける印度への通路　岡本　基君

Massachusetts の Tafts College の H.L. Hoskins 教授の一九二五年一月の History 誌に載せし論文の紹介である。先づ通路に就ての解說を試み、フランスの東方に於ける活動を概說し然る後に本論に入りて此通路の建設の由來より一時之が中絶し再び復活されし經過を確め該通路の效果及後世への影響を說き其間英佛兩國間の商業政

治植民關係を一覽して結ぶ。

例會　十一月廿六日樂友會館にて第六回例會開催坂口教授時野谷助教授菅原中原兩學士學生十數名出席、左の如く二君の紹介あり。

アルビジョアに就て　猪谷　文臣君

南佛のアルブ市を中心とせしアルビジョアは有名な異端にして、其起源はカトリック教を純化せんとする運動にありて、東方より輸入せられし Catharisme を以て主義となせしが Petrus Valdes の頃より漸次異教化し、遂いにインノセント三世は十字軍を起すことになり、フランス國王之に從事しサン・ルイの時に至りてやうやく鎭定せらる。此宗教戰によりて佛國王權はこの地方に强大となるにいたるのである。

ナポレオンとケーザル　原　弘二郎君

Heinrich von Treitschke は其著 Historische und Politische Aufsätze の中にナポレオンとケーザルとを比較して論じてをる。ナポレオンは軍人にしてケーザルは政治家である。前者は近世の覇者にして後者は古代の英雄である。その時代精神を背景として兩雄には各自の特質をもつてをる。トライチツケは事々にナポレオンはケーザルに及ばざることを述べ、兩雄の類似は兩者とも英雄にして、貴族政治に反抗して統治權の簒奪者なることにあるのみなり。世上ナポレオンとケーザルとを相似せるものとして比較すがそれは當らざるものである。

◎第十一回京都大藏會

昨年十月四日午前九時より東山知恩院雪香殿に於て、京都佛教各宗學校聯合會主催の下に第十一回大藏會が擧行せられ、四・五兩日間一般の觀覽に充てられた。第一室には知恩院所藏の古經と淨土變相とを展覽したが、第一門に古寫經を陳列し、其第一類外邦古寫經二十五點、第二類奈良朝時代寫經四十四點、第三類平安朝時代寫經十九點、第四類鎌倉時代以降の中尤なる寫經十二點を選ばれて居り、その主要なものとしては西魏大統十六年書寫の菩薩處胎經全五卷、唐咸亨四年書寫の大樓炭經一卷、天平年間寫經生日記一卷、上宮聖德法王帝說一卷等は

國寶に指定されて居るし、天平寫經なる大通方廣經下一卷は藏外經にて北京圖書館、支那人某氏各一卷所藏を合して完本となる希觀の經であり、順次往生講式は文治二年六月二日信玄書寫なるが紙背は繼目より推して却て古く倭漢朗詠注上、極樂唱歌等あり古樂譜催馬樂に擬せるもので梁塵祕抄と對比して歌學研究上興深く、後奈良天皇宸翰阿彌陀經一卷等を擧げ得べく、第二門には宋代福洲東禪寺版藏經、出相阿彌陀經等二十點、第三門には國寶觀經・彌陀經說相の淨土變を初め地藏・觀音の變相等十幅あり、此等百三十餘點の大部分が、前淨土門主松翁養鷗徹定師の蒐集になつたのであつて、一々師の題字か跋文が認められてゐる。

師は古經堂とも號してゐた程の古經類の研究家で又愛藏家でもあつた。此の遺德讃仰の爲めに第二室は徹定師に關したもので、知恩院以外に所藏せるものを陳列したが、第一類古寫經十二點何れも師の跋あり、就中大阪府小川爲次郎氏の華嚴經音義上下二卷は書風も麗しく則天文字の多きと註解に古き和訓を用ゐる居る事にて珍重すべく、華嚴要義問答二卷（國寶・延曆寺藏）綴華嚴疏（大阪府安福寺藏）等何れも尤物であり、第二類に徹定師遺書及校刊本等四十餘點の出陳あり、その中、古經搜索錄（神田喜一郎氏藏）、古經題跋（木活・大阪安福寺藏）、祖蹟跋文（藤堂祐範氏藏）、松翁詩文稿（安福寺・久留米宗安寺藏）等は師の學識を伺ひ得べく、破提宇子（木活・京都帝國大學藏）、闢邪論（新村博士藏）、天主聖像略說（東京大鳥富士太郎氏藏）等は排耶護法の精神より、蓮門經籍錄（內藤博士藏）、阿彌陀經（猪熊氏・妻木氏藏）の覆刻、傳語匡謬及餘論（江藤澂英氏藏）等は正法興隆の爲に校刊した代表的のものである。第三類遺墨には、古文牒（長崎岩井智海氏藏）、畫帖（大阪岩本諦圓氏藏）等大小扁軸三十餘點に達した。猶ほ四日午後は同殿一之間に於て、高楠順次郎博士の大藏經に就て、內藤虎次郎博士の養鷗徹定師に就いての講演が催された。〔井川定慶氏報〕

會報

●寄贈交換圖書

シウンベルク先生渡來百五十年紀念論文集　武藤長藏氏
鎌倉時代の研究　星野書店
西域發見の繪畫に見えたる服飾の研究（原田淑人著）　東洋文庫
改定中原音韻（石山福治著）　同
東洋學報　一五の二　東洋協會學術調査部
國學院雜誌　三一の一〇、一一、一二　國學院大學
歷史地理　四六の四、五、六　日本學術普及會
史學雜誌　三六の九、一〇　史學會
人類學雜誌　四〇の一〇、一一、一二　東京人類學會
觀想　二〇、二一　東洋大學
經濟論叢　二一の五　京都帝國大學經濟學會
史學會々報　五　神宮皇學館史學會
龍谷大學論叢　二六四、二六五　龍谷大學論叢社
佛教研究　六の三　大谷大學佛教研究會

●會員動靜

入會

神奈川縣鶴見町東寺尾寺谷五三八　小林高四郎氏
（右紹介者、加藤繁氏）
東北帝國大學法文學部　原隨園氏
（右紹介者、坂口昂氏）
大連市兒玉町、滿洲教育專門學校　久原市次氏
同　田中豐助氏
（右紹介者、横地得三氏）
東京市牛込區市ヶ谷仲之町一七　林若吉氏
（右紹介者、新村出氏）
大阪市南區鰻谷東ノ町一七九　村田又兵衛氏
（右紹介者、田中吉太郎氏）
大阪市南區長堀橋筋一の四四　前川輝彦氏
京都市上京區田中大堰町二三　松本博氏
水戸市外常盤村光臺寺南　增井經夫氏
京都市上京區下鴨半木町七七　岡本重彦氏

京都帝國大學文學部史學科　野口優德氏
同　岡宮自猛氏
同　久司慶三氏
同　浦廉一氏
同　中條秀雄氏
同　金子久親氏
京都帝國大學寄宿舍內　安部健夫氏
（右紹介者、島田貞彥氏）
東京市本鄉區臺町二、勇館內　末松保和氏
（右紹介者、岩生成一氏）
東京府下長崎村地藏堂一〇三元、山口方　李永漢氏
（右紹介者、小林秀雄氏）
富山中學校　吉崎正治氏
（右紹介者、大村正之氏）

■退　會

野山忠幹氏　堀維孝氏　大石治吉氏
横山ソノ氏　白石正邦氏　口石敬義氏
山田安次郎氏

■逝　去

太田稔氏　黑川眞道氏

謹みて哀悼の意を表す。